

通所介護施設で防犯訓練

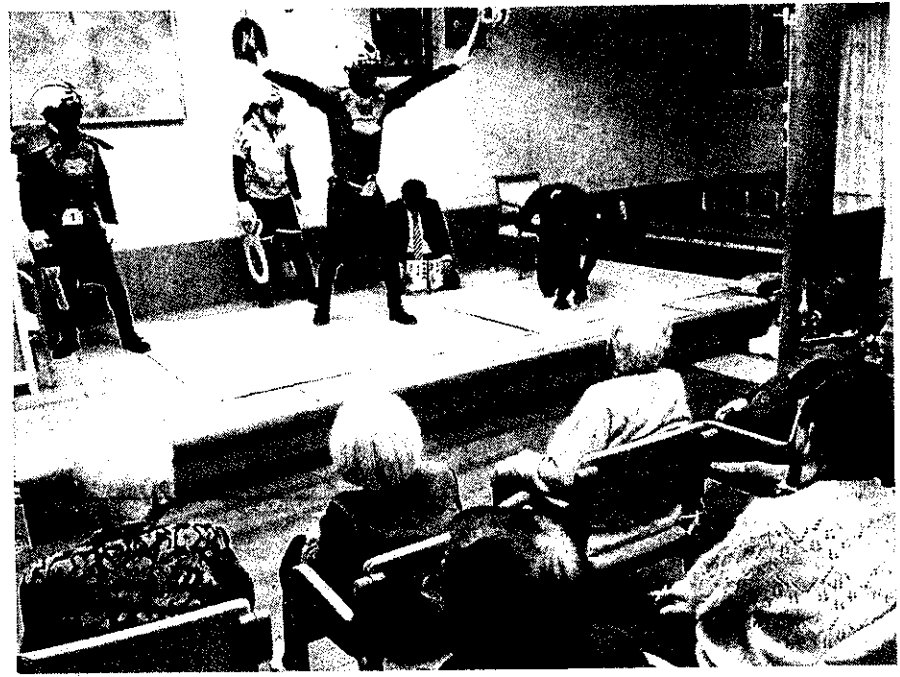
不審者侵入時の対応学ぶ

出雲市今市町の高齢者向けデイサービス（通所介護）施設「ケアサポート相生」で10日、出雲署の協力による防犯訓練が行われた。同施設初めての訓練で、利用者や職員16人が参加。不審者侵入時の対応を訓練したほか、署員が寸劇を披露し、特殊詐欺の被害防止を呼び掛けた。

訓練実施は、同施設の運営推進会議がきっかけだった。11年前の開設以来、定期的に避難訓練をしてきたが、防犯訓練は未実施だと報告に、出席した出雲市駅前交番の西條究（きわむ）警部補が訓練を提案。「110番の日」の実施が決まった。当日は、署員が不審者役として施設に侵入。刃物を向けて騒ぐ様子を見た職員らが、利用者たちを掃き出し窓のある部屋に避難誘導し、すぐに110番通報した。電話先の通信指令からの指示に従い、不審者を刺激しないように時間を稼ぎ、駆け付けた警察官が制圧した。

ること▽全員の情報共有し、誰もが代理で担当可能にすることなどが重要とした。一方で、迅速な避難が難しい利用者が多い施設では、侵入を許さない、避難可能なドアや仕切りを設置が有効だと説明した。

利用者の女性（90）は「不審者の剣幕にびびり、どきりしたが、貴重な体験ができました」と話していた。施設管理者の川井真弓さんは「訓練の反省点を生かして、危機感を持って対策したい」と話した。



特殊詐欺の寸劇で被害防止を学ぶ施設利用者ら＝10日、出雲市今市町のケアサポート相生

「わい」と声が上がるほどの臨場感ある訓練だったが、終了後の交流会は和やかな雰囲気。利用者たちは署員13人との交流を楽しみ、寸劇に出演した「鍵かけ戦隊かけるんじゃー」と記念撮影していた。

交流会中、同地域課の植本真一警部補が、職員に防犯対策を説明。▽不審者への対応と避難誘導、通報の分担をあらかじめ決めること▽全員の情報共有し、誰もが代理で担当可能にすることなどが重要とした。一方で、迅速な避難が難しい利用者が多い施設では、侵入を許さない、避難可能なドアや仕切りを設置が有効だと説明した。